

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
国語 I A	平成20年度	久留原 昌宏	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

本科目では、中学校までの国語学習の復習を含めながら日本語の「現代文・表現」についての授業を行い、高等専門学校第1学年の学生として、そして現代に生きる日本人として必要な日本語の基礎的な能力を、「現代文・表現」の分野を中心に身につけさせたい。

[授業の内容]

すべての内容は学習・教育目標(A)の〈視野〉および(C)の〈発表〉に対応する。

前期

- 第1週 本授業の概容および学習内容の説明
 評 論 言葉の力(大岡 信)①
- 第2週 評 論 言葉の力(大岡 信)②
- 第3週 評 論 言葉の力(大岡 信)③
- 第4週 小 説 青が消える(村上春樹)①
- 第5週 小 説 青が消える(村上春樹)②
- 第6週 小 説 青が消える(村上春樹)③
- 第7週 小 説 青が消える(村上春樹)④
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 前期中間試験の反省
 表 現 スピーチをする
- 第10週 詩 サークス(中原中也)①
- 第11週 詩 サークス(中原中也)②
- 第12週 詩 対話(茨木のり子)①
- 第13週 詩 対話(茨木のり子)②
 表 現 読書感想文を書く
- 第14週 評 論 世界中がハンバーガー(多木浩二)①
- 第15週 評 論 世界中がハンバーガー(多木浩二)②
- 第16週 評 論 世界中がハンバーガー(多木浩二)③

後期

- 第1週 前期末試験の反省
 詩 歌 白牡丹(俳句)①
- 第2週 詩 歌 白牡丹(俳句)②
- 第3週 詩 歌 白牡丹(俳句)③
- 第4週 評 論 「仕切り」の文化論(柏木 博)①
- 第5週 評 論 「仕切り」の文化論(柏木 博)②
- 第6週 評 論 「仕切り」の文化論(柏木 博)③
- 第7週 評 論 「仕切り」の文化論(柏木 博)④
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 後期中間試験の反省
 小 説 羅生門(芥川龍之介)①
- 第10週 小 説 羅生門(芥川龍之介)②
- 第11週 小 説 羅生門(芥川龍之介)③
- 第12週 小 説 羅生門(芥川龍之介)④
- 第13週 小 説 羅生門(芥川龍之介)⑤
- 第14週 表 現 ディベートを通して考えを深める ①
- 第15週 表 現 ディベートを通して考えを深める ②
- 第16週 表 現 手紙を書く
 年間授業のまとめ、授業反省アンケート

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
国語ⅠA（つづき）	平成20年度	久留原 昌宏	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 評論「言葉の力」を読み、言葉を贈り物にするという伝統の中から、言葉の奥に隠された力を見つめ直す目を養うことができる。 2. 小説「青が消える」を読み、情景や心の動きを踏まえながら、現代の若者を取り巻く不安について考えることができる。 3. スピーチの実践を通して、「自分」を明確にとらえ、それを口頭で他の人に伝わるように表現することができる。 4. 詩「サーカス」「対話」を読み、詩が作り出す独自のイメージの世界をつかみ、人間の世界や生き方を考える契機にすることができる。 5. 読書感想文の書き方を学び、まとまった読書体験記として完成させることができる。 6. 評論「世界中がハンバーガー」を読み、ファーストフードの普及がもたらした現代の生活文化の変化について考えることができる。 7. 近代俳句の主だった作品を読み、表現の工夫を味わい、情景をイメージすることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 評論「『仕切り』の文化論」を読み、「仕切り」の形式の変遷をたどることを通じて、日本文化の特質について考えることができる。 9. 小説「羅生門」を読み、登場人物の心情の変化を場面に即して把握するとともに、〈作者〉のあり方にも目を向けることができる。 10. ディベートの実践を通して、目的や人数に応じた話し合いの方法を身につけ、物の考え方を深めることができる。 11. 手紙文の執筆を通して、一定の形式に則りながら自己の内面を明確にとらえ、それを他の人に伝わるように表現することができる。 12. 「三訂版 漢字とことば常用漢字アルファ」に基づき、漢字小テストを年間12回程度実施し、高専1年生として必要な漢字・語彙力を習得している。 13. 12の実践を踏まえて、文部科学省認定の「漢字能力検定試験」「4級」以上の実力を有している。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>近現代の文学や日本文化に関する基礎的な知識、日本語で書かれた文章の読解力、および日本語による的確な表現能力を有している。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～13を網羅した問題を、2回の中間試験・2回の定期試験と小テスト・提出課題・口頭発表等で出題し、また「漢字能力検定試験」を受検させ、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。疑問が生じたら、その授業後直ちに質問すること。出された課題は期限を厳守し、必ず提出すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校卒業程度の国語の知識および能力を、身につけていることが必要である。</p>	
<p>[レポート等] 理解を助けるために随時演習課題を与え、試験時ごとにノートとともに提出させる。また夏期休業中の宿題として、外部コンクールに応募するための課題図書による読書体験記、または定められたテーマによるエッセイを執筆させ、提出させる。</p>	
<p>教科書：「新精選国語総合」（明治書院） 参考書：「クリアカラー国語便覧 第三版」（数研出版）、「三訂版 漢字とことば 常用漢字アルファ」（桐原書店）、 学校指定の「電子辞書」, 「国語表現活動マニュアル」（明治書院）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 2回の中間試験・2回の定期試験の平均点を60%、小テスト・提出課題・口頭発表等の結果および漢字能力検定への取り組みを40%として評価する。</p> <p>ただし、前記中間・前期末・後期中間試験の評価で60点に達していない学生については再試験を行い、80点以上に達した場合に限り、試験成績を60点に置き換えて評価するものとする。学年末試験については再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件] 与えられた課題レポート等をすべて提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
国語 I B	平成20年度	西岡将美	1	通年	履修単位 2	必修

〔授業のねらい〕 本科目は、高等専門学校での国語の基礎能力を「古文・漢文」の分野を中心にして身につけさせるとともに、「古典」学習の意義（(1)当時の人々の考え方、生き方を知る。(2)古典を通じて現代の自分たちの生活、考え方、生き方を捉えなおす。）を再確認する。具体的には、第1学年の学生として中学校までの古典学習の総復習を含めながら、高専生として、そして現代に生きる日本人として、必要な古典文学の基礎知識の獲得と、読解力の向上をねらいとする。

〔授業の内容〕		後 期
前期すべての内容は学習・教育目標（A）の<視野><意欲>、及び（C）の<発表>に対応する。		第1週 前期末試験の反省
前 期		日記「門出」（土佐日記） （文法の基礎学習⑥「助動詞」の学習）
第1週	古文入門 「古典学習の意義」および学習方法について	第2週 日記「門出」（土佐日記） （文法の基礎学習⑦「助動詞」の学習）
第2週	入門（説話）「児のそら寝」①（「宇治拾遺物語」） （歴史的仮名遣い、「いろは歌」を学ぶ）	第3週 日記「忘れ貝」（土佐日記） （文法の基礎学習⑧「助動詞」の学習）
第3週	入門（説話）「児のそら寝」②（「宇治拾遺物語」） （文法の基礎学習①「品詞」の種類）	第4週 日記「忘れ貝」（土佐日記） （文法の基礎学習⑨「助動詞」の学習）
第4週	入門（説話）「児のそら寝」③（「宇治拾遺物語」） （文法の基礎学習②用言の活用と活用形）	第5週 日記「忘れ貝」（土佐日記） （文法の基礎学習⑩「助動詞」の学習）
第5週	入門（説話）「尼、地蔵を見奉ること」① （文法の基礎学習③「係り結びの法則」）	第6週 日記「帰京」（土佐日記） （文法の基礎学習⑪「助動詞」の学習）
第6週	「尼、地蔵を見奉ること」② （文法の基礎学習④「動詞の活用の種類・正格活用」）	第7週 日記「帰京」（土佐日記） （文法の基礎学習⑫「助動詞」の学習）
第7週	「尼、地蔵を見奉ること」③ （文法の基礎学習⑤「動詞の活用の種類・変格活用」）	第8週 後期中間試験
第8週	前期中間試験	第9週 後期中間試験の反省
第9週	前期中間試験の反省 （作り物語）「かぐや姫の生い立ち」①（「竹取物語」） （文法の基礎学習⑥「形容詞」活用の種類）	古文・紀行文「旅立ち」①（奥の細道） （作者の人生観・表現上の特徴・俳諧の鑑賞）
第10週	（作り物語）「かぐや姫の生い立ち」②（「竹取物語」） （文法の基礎学習⑦「形容動詞」活用の種類）	第10週 古文・紀行文「旅立ち」②（奥の細道） （作者の人生観・表現上の特徴・俳諧の鑑賞）
第11週	（作り物語）「かぐや姫の生い立ち」③（「竹取物語」）	第11週 古文・紀行文「平泉」①（奥の細道） （表現上の特徴・俳諧の鑑賞・漢詩）
第12週	漢文入門 格言・成句① （訓読基礎「返り点」の学習①）	第12週 古文・紀行文「平泉」②（奥の細道） （表現上の特徴・俳諧の鑑賞・漢詩）
第13週	漢文入門 格言・成句② （訓読基礎「返り点」の学習②）	第13週 漢文・論語の世界①（「学問」）（学而）
第14週	漢文入門 格言・成句③ （訓読基礎「書き下し文」の学習①）	第14週 漢文・論語の世界②（「学問」）（述而）
第15週	漢文入門 格言・成句④ （訓読基礎「書き下し文」の学習②）	第15週 漢文・論語の世界③（「弟子」）（願淵）
第16週	漢文入門 格言・成句③ （訓読基礎「再読文字」「置き字」「助字」の学習）	第16週 漢文・論語の世界④（「人間」）（子路） 年間授業のまとめ・アンケート（感想）実施・提出

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
国語 I B (つづき)	平成 20 年度	西岡将美	1	通年	履修単位 2	必修

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>前期</p> <p>(古文入門) (「宇治拾遺物語」)</p> <p>1、音読を通して現代文との違いに注意しながら、古文を読むための基礎(歴史的仮名遣い・「品詞」の分類等)を理解している。</p> <p>2、登場人物の心理に注目して、古文の世界を理解できる。</p> <p>(古文・物語) (「竹取物語」)</p> <p>3、物語の展開をおさえながら、古典の内容を理解している。</p> <p>4、古典文法の基礎学習「用言」の学習内容を理解している。</p> <p>(漢文入門) (訓読の基礎・「格言・成句」・)</p> <p>5、漢文の特色を学び、漢文訓読の基礎(訓点・書き下し文)を理解している。</p> <p>6、名言と故事を読み、漢文の世界を理解できる。</p>	<p>後期</p> <p>(古文・日記) (「伊勢物語」)</p> <p>7、古文内容を正確に理解する力を養い、日記文学「土佐日記」の特色、ユニークさを理解している。</p> <p>8、古典文法の基礎学習「助動詞」の学習内容を理解している。</p> <p>(古文・俳諧紀行) (「おくのほそ道」)</p> <p>9、作品の内容を理解し、それを鑑賞できる。また、作者「松尾芭蕉」に関する文学史的な知識を理解している。</p> <p>10、「奥の細道」の文体を味わい、名文である「旅立ち」ぼ冒頭部分を暗唱できる</p> <p>(漢文・思想) (「論語の世界」)</p> <p>11、孔子の思想の特色や考えを理解している。</p> <p>12、語句の用法や語義に注意し、語彙を豊かにし、その上で、日本文化への影響と現代的意義について理解している。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>古典学習を通じて、当代の人間の考え方や生き方を知ることから始まり、加えて現代に生きる日本人として必要な「古典文学」の基礎知識の獲得と読解力の向上を果たすことができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」(前期 1～6・後期 7～12)のすべてを網羅した問題を2回の中間考査、2回の定期考査とレポート等で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等する。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 授業中は学習に集中し、内容に対して積極的に取り組むこと。また、ノート、課題は期限厳守の上提出すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校卒業程度の国語能力、特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>理解を深めるため、すべての教材に演習課題を与える。また、古典文法小テスト、古典名文の暗唱テスト、ノート提出等を課す。</p>	
<p>教科書：「新精選国語総合」(明治書院)</p> <p>参考書：「クリアカラー国語便覧」(数研出版)、「楽しく学べる基礎からの古典文法」(第一学習社)、本校指定の電子辞書、</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の4回の試験の平均点を60%、課題(レポート、ノート提出)20%、小テスト等の結果を20%として評価する。ただし、前期中間・前期末・後期中間・学年末試験ともに再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた演習課題を提出し、学業成績で60点以上を修得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
世界史 I	平成20年度	小倉正昭	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

1. 人類の歴史文化遺産に親しみ、国際人としての教養を身につける。
2. 人類や社会の進歩発展の過程や諸文明の盛衰の原因を考察する。

[授業の内容]

すべての内容は、教育・学習目標(A)<視野>に対応する。

前期

- 第1週 授業の概説—世界史概論
- 第2週 原始社会1—人類の発展史, 原始宗教
- 第3週 原始社会2—農耕牧畜の歴史的意義
- 第4週 オリエン特文明1—古代メソポタミア史
- 第5週 オリエン特文明2—アケメネス朝ペルシア帝国史
- 第6週 オリエン特文明3—古代エジプトの歴史
- 第7週 オリエン特文明4—古代エジプトの文化
- 第8週 オリエン特文明5—地中海東岸の諸国の歴史
- 第9週 中間試験
- 第10週 地中海文明1—エーゲ文明, ボリスの成立
- 第11週 地中海文明2—アテネとスパルタ
- 第12週 地中海文明3—古代アテネの民主主義の成立史
- 第13週 地中海文明4—古代ギリシアの盛衰
- 第14週 地中海文明5—ヘレニズム時代史
- 第15週 地中海文明6—ローマのイタリア統一, 帝政の成立
- 第16週 地中海文明7—キリスト教の発展, ローマ帝国の没落

後期

- 第1週 インド文明1—インダス文明, アーリア人の進入
- 第2週 インド文明2—仏教・ジャイナ教の成立過程
- 第3週 インド文明3—統一国家と仏教の発展と衰退
- 第4週 中国文明1—中国史の特質問題, 黄河文明論
- 第5週 中国文明2—殷周時代, 春秋戦国史
- 第6週 中国文明3—古代中国思想史の展開
- 第7週 秦漢時代1—皇帝政治と古代統一国家の成立史
- 第8週 秦漢時代2—漢帝国の成立史
- 第9週 中間試験
- 第10週 秦漢時代3—専売制度の成立と歴史的意義
- 第11週 秦漢時代—秦漢時代の文化と東アジア
- 第12週 南北朝時代1—三国時代と五胡十六国時代論,
- 第13週 南北朝時代2—九品官人法と門閥貴族制の成立
- 第14週 隋等時代1—隋・唐の中国統一、
- 第15週 隋唐時代2—律令制度と唐の盛衰
- 第16週 隋唐時代3—両税法の歴史的意義と唐代の文化

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
世界史Ⅰ（つづき）	平成20年度	小倉正昭	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の発展過程と原始人の宗教生活が理解できる。 2. 農耕牧畜の開始により原始国家の成立過程が理解できる。 3. アケメネス朝ペルシア史で専制国家の特徴が理解できる。 4. エジプトの古代文化の西洋文化への影響が理解できる。 5. エーゲ文明の内容とポリスの成立過程が理解できる。 6. アテネとスパルタの違いが理解できる。 7. 古代アテネの民主政治の成立の原因や特徴が理解できる。 8. ローマのイタリア半島統一と地中海征服の意義が理解できる。 9. ローマ帝政の成立とキリスト教の発展の関係が理解できる。 10. ローマ帝国の衰退原因と中世への移行過程が理解できる。 	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アーリア人の侵入による政治支配の特徴が理解できる。 2. 仏教の成立背景と発展と没落の理由が理解できる。 3. 中国史の特質と殷周時代の特徴が理解できる。 4. 諸子百家思想で中国思想の特質が理解できる。 5. 秦漢帝国の成立過程と専売精度の歴史的意義が理解できる。 6. 漢代の儒教の発展と中国の歴史書と特徴が理解できる。 7. 中国中世の特質と北魏の中国支配の特徴が理解できる。 8. 門閥貴族制度の成立と特徴が理解できる。 9. 隋の中国統一の意義と律令制度の内容が理解できる。 10. 中国史における両税法改革の歴史的意義が理解できる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>人類の発展過程と農耕牧畜の大切さ、古代のメソポタミア文明やエジプト文明の内容、古代ギリシアや古代ローマの歴史発展と没落過程、古代インドの歴史特徴と仏教の成立と発展、中国古代史の発展、秦漢帝国の成立や南北朝から唐代の貴族性時代の特徴が理解できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」前期1～11、後期1～12を網羅した問題を2回の中間試験、2回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。重みは概ね均等とする。評価結果が60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項] 新聞、テレビニュース等も教材として随時利用する。また「世界史図説」は授業に必ず携帯すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 今日、世界で生起している歴史的事件に関心を寄せておくこと。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>なし</p>	
<p>教科書：「新編 世界の歴史」北村正義編(学術図書出版社)</p> <p>参考書：「総合新世界史図説」帝国書院編集部編(帝国書院)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>定期試験(期末試験)及び平常試験(中間試験)で評価を行う。前期中間、前期末、後期中間、学年末の4回の試験の平均点で評価する。ただし前期中間、前期末、後期中間の3回の試験について60点に達していない者には再試験を行い、60点を上限として再試験の成績で置き換える。学年末試験については再試験を行わない。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
地理	平成20年度	市川千昭	1	通年	履修単位2	必修

[授業のねらい]

人間と自然環境・社会環境との関係を学習することにより、世界各地域、国の現状を把握し、現代社会の諸問題に対する関心を高める。現代は一国だけでは政治、経済活動を行うことはできない。グローバル化した時代認識の上に立ち地球的課題の解決に少しでも役立てるようにする。

[授業の内容] 前後期の第1～15週までの内容は、学習・教育目標 (A) <視野>、<技術者倫理>に対応する。

前期

第1週	球面上の世界と地域構成(1)	
	私たちの星・地表面の捕らえ方	
第2週	球面上の世界と地域構成(2)	球面と平面の世界
第3週	球面上の世界と地域構成(3)	時差と生活
第4週	球面上の世界と地域構成(4)	国家と地域区分
第5週	結びつく現代世界(1)	世界を結ぶ交通
第6週	結びつく現代世界(2)	世界を一つに結ぶ通信
第6週	結びつく現代世界(2)	国際化する人々の移動
第8週	前期中間試験	
第9週	人間生活をとり巻く環境(1)	人々の生活と地形
第10週	人間生活をとり巻く環境(2)	人々の生活と地形
第11週	人間生活をとり巻く環境(1)	人々の生活と地形
第12週	人間生活をとり巻く環境(1)	人々の生活と地形
第13週	人間生活をとり巻く環境(1)	人々の生活と気候
第14週	人間生活をとり巻く環境(1)	人々の生活と気候
第15週	人間生活をとり巻く環境(1)	人々の生活と気候
第16週	〃	〃

後期

第1週	世界の諸地域の生活と文化	中国の生活・文化
第2週	〃	東南アジアの生活・文化
第3週	〃	インドの生活・文化
第4週	〃	ヨーロッパの生活・文化
第5週	〃	U. S. A. の生活・文化
第6週	〃	オーストラリアの生活・文化
第7週	地域的課題と私たち(1)	世界の人口問題
第8週	中間試験	
第9週	地域的課題と私たち(2)	世界の人口問題
第10週	〃	世界の食糧問題
第11週	〃	世界の都市・居住問題
第12週	〃	世界の資源・エネルギー問題
第13週	〃	世界の環境問題(1)
第14週	〃	世界の環境問題(2)
第15週	近隣諸国が取り組む課題と日本の役割	
第16週	1年間の総復習	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
地理（つづき）	平成20年度	市川千昭	1	通年	履修単位2	必修

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 地球の大きさについて理解している。</p> <p>2. 地図についての基本的知識を習得している。</p>	<p>3. 地形・気候について理解している。</p> <p>4. 世界の主要国の自然・社会環境生活文化の特色が理解できる。</p> <p>5. 世界の諸問題について理解し考えることができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>地理的なものの見方、考え方を習得し、事実の把握だけにとどまらず、いろいろな事象を地理的に考察できる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～5の確認を、2回の中間試験、2回の定期試験および課題で行う。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>1. 教科書・地図帳を用いて授業を進めるので、話をよく聞いて事象と事象の結びつきを理解することに努めることが肝要である。</p> <p>2. 板書を多くするので必ずノートをとること。</p> <p>3. 国名、県名、都市名など地誌の知識に乏しいと理解が困難になる。授業には必ず地図帳を持参すること。同時に普段の生活の中でも社会の動きに関心を持つこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>小・中学校で学んだ地理的分野の知識</p>	
<p>[レポート等]</p>	
<p>教科書：「新地理A1(帝国書院)」、「新詳高等地図」(帝国書院)</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価法および評価基準]</p> <p>4回の定期試験の結果と課題の提出、授業への取り組みにより総合判断をする。成績不振者については、再試験または課題を課す。再試験で60点以上を得点するか、または課題を提出した場合には60点を上限として定期試験の点数と置き換える。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた課題レポートを提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学 I	平成20年度	横山定晴	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

数学の基礎となる概念や理論を学び、数と式、等式と不等式、関数、個数の処理について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図るとともに、それらを的確に活用する能力を伸ばすことを目的とする。

[授業の内容] 全ての内容は、学習・教育目標 (B) <基礎>に対応する。

前期

(数と式)

- 第1週 授業の概要、整式の次数と係数、加法と減法
- 第2週 整式の乗法・展開
- 第3週 整式の乗法・展開
- 第4週 整式の因数分解
- 第5週 整式の因数分解
- 第6週 整式の因数分解
- 第7週 いろいろな因数分解
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 整式の除法
- 第10週 整式の約数・倍数
- 第11週 有理式の加減乗除
- 第12週 平方根と根号
- 第13週 根号を含む式の計算
- 第14週 恒等式
- 第15週 命題
- 第16週 復習

後期

- 第1週 因数定理、3次以上の式の因数分解
- 第2週 高次方程式
- 第3週 等式・不等式の証明
- 第4週 等式・不等式の証明
- (関数)
- 第5週 関数のグラフの平行移動・対称移動
- 第6週 べき関数
- 第7週 分数関数
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 無理関数
- 第10週 グラフを用いた方程式・不等式の解法
- 第11週 絶対値の入った方程式・不等式
- 第12週 逆関数
- (個数の処理)
- 第13週 場合の数、順列
- 第14週 組合せ
- 第15週 2項定理
- 第16週 復習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学 I	平成 20 年度	横山定晴	1	通年	履修単位 2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 整式の次数を理解し，加法・減法・乗法・除法ができる。 2. 整式の展開・因数分解ができる。 3. 整式の倍数・約数の意味を理解している。 4. 有理式の通分・約分・加法・減法・乗法・除法ができる。 5. 実数の分類ができ，それぞれの具体例を挙げることができる。 6. 2つの実数の大小がもう一つの数をたしたりかけたりした時どう変化するかを理解している。 7. 絶対値の意味を理解し，簡単な計算ができる。 8. 平方根とルートの違いを理解し分母の有理化等ルートを含む数式の計算ができる。 9. 恒等式と方程式の違いを理解し，恒等式であるための条件を求めることができる。 10. 剰余の定理・因数定理の意味を理解し，これらの定理を用いて高次方程式や不等式を解くことができる。 11. 等式，不等式の証明ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 12. 関数の平行移動，対称移動の意味を理解し，移動したグラフの方程式を求めることができる。 13. 分数関数や無理関数のグラフを描くことができる。 14. 無理方程式や分数方程式を解くことができる。 15. 逆関数の定義と性質を理解し，求めることができる 16. グラフを用いて，方程式・不等式を解くことができる。 17. 逆関数の意味を理解し，逆関数の方程式を求めること，グラフを描くことができる。 18. 場合の数，順列・組合せについて理解し，それらを求めることができる。 19. 二項定理を用いて，式を展開すること，係数を求めることができる。
<p>[この授業の達成目標] 整式，分数式，無理式，順列，組み合わせなどの計算やそれらで作る方程式の計算に習熟する。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」の習得の度合を，中間試験，期末試験，小テスト，レポート・課題により評価する。各項目の重みは概ね均等とする。試験問題とレポート課題のレベルは，100点法により60点以上の得点を取得した場合に目標を達成したことが確認できるように設定する</p>
<p>[注意事項] 定期試験直前の学習だけでなく，日常から予習・復習をすること。理解できなかった部分については，参考書を見たり担当教官等に質問したりし，しっかり理解してから次の授業に臨むこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学で学んだ数学の知識を必要とする。特に，因数分解，2次方程式，ルートを含む式の計算を復習しておくこと。</p>	
<p>[自己学習] 夏季休業中の課題のほか，授業時にも適宜レポートを課します。また，成績不振学生に対しては，再試験やレポートなどを課します。</p>	
<p>教科書：教科書：「高専の数学1」（森北出版） 問題集：「新編高専の数学1問題集」（森北出版） 参考書：「高数への準備演習」（数研出版），「チャート式 数学I+A」，「同数学II+B」（数研出版）白色チャートを推奨しますが，何色でも構いません。ドリルと演習シリーズ 基礎数学（TAMSプロジェクト4編集）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準] 前期中間・前期末・後期中間・後期末の4回の試験の他，入学前に配布する「高数への準備演習」等から出題する小テスト，レポート・課題等の内容等を総合的に判断し，100点満点で評価する。 「単位修得要件」 学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学Ⅱ	平成20年度	川本正治	1	通年	履修単位2	必

[授業のねらい]

工学において基本的な関数である二次関数，対数関数について学ぶ．特に二次関数とそのグラフ，二次方程式・二次不等式などを系統的に理解し，それらに関連した諸性質を自在に扱えるだけの学力を身に付けることを目指す．指数・対数については，まずその定義や性質をしっかりと理解し計算力を身に付けた上で，それらの関数のグラフやその応用等の理解・習得を目指す．

[授業の内容]

以下の内容は全て，学習・教育目標（B）〈基礎〉に対応する．

前期

第1週 授業の概要

関数，座標平面とグラフ，二次関数

第2週 二次関数の標準形とグラフの平行移動

第3週 二次関数の一般形から標準形への変形（平方完成）

第4週 グラフを利用した二次関数の最大値・最小値の求め方

第5週 二次方程式の解の公式とその導き方

第6週 負の数の平方根としての虚数の発見，二次方程式の解の公式と虚数解

第7週 虚数単位と複素数，複素数の四則演算，複素平面，共役複素数と絶対値

第8週 前期中間試験

第9週 二次式の判別式，二次方程式の解の判別

第10週 解と係数の関係とその応用

第11週 解の公式を利用した二次式の因数分解

第12週 二次関数のグラフとx軸との共有点の個数を判別式を用いて調べる

第13週 放物線と直線が接するための条件，交わるための条件

第14週 二次不等式，そのグラフによる解法

第15週 連立一次不等式，絶対値記号を含む不等式

第16週 連立二次方程式

後期

第1週 指数が自然数の場合の指数法則，指数の整数への拡張

第2週 べき関数のグラフを用いた累乗根の定義と根号に関する性質

第3週 指数の有理数への拡張と指数法則

第4週 拡張された指数の定義，指数法則に慣れるための演習

第5週 正の数の累乗，指数の大小関係

第6週 指数関数の定義とそのグラフ

第7週 指数方程式・不等式

第8週 後期中間試験

第9週 対数の定義とその例

第10週 対数の性質，底の変換公式

第11週 対数関数の定義とそのグラフ

第12週 対数の大小の関係，対数方程式・不等式

第13週 常用対数，対数表を用いた数値計算の方法

第14週 対数に関する総合演習

第15週 不等式の表す領域

第16週 領域における最大値・最小値の求め方

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学Ⅱ（つづき）	平成20年度	川本正治	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実数に対し実数を対応させる操作である関数の概念を理解している。 2. グラフを平行移動させるために、関数の変数 x, y にどんな操作をしたらよいか理解している。 3. 二次関数の標準形への変形（平方完成）ができ、そのグラフをかくことができる。 4. 二次方程式の解の公式を理解し利用できる。 5. 複素数の四則演算、分母の実数化ができる。 6. 二次関数のグラフと二次式の判別式との関係を理解している。 7. 二次方程式の解の判別ができる。 8. 解と係数の関係を理解し、様々な問題に関して応用できる。 9. 二次不等式をグラフを用いて解くことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 10. 拡張された指数の定義を理解し、指数法則を正しく利用できる。 11. 対数の記号の意味を理解し、その計算を行うことができる。 12. 指数・対数を用いたいろいろな計算ができると共に、指数関数・対数関数が必要な実際の問題にそれを応用できる。 13. 指数関数・対数関数のグラフをかくことができる。 14. 指数や対数の入った方程式・不等式を解くことができる。 15. 簡単な不等式の示す領域を座標平面上に図示でき、それらを利用できる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>二次式に関する諸性質を理解し、指数・対数に関する計算が確実にでき、またそれらのグラフを利用することで、不等式などの様々な問題を解決することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～15の確認を定期試験、小テスト、レポート課題において目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とするが、評価結果が百分法で60点以上の成績を取得したとき目標を達成したとする。</p>
<p>[注意事項] 疑問点は授業中・放課後に質問するなどして、十分に理解してから次の授業に臨むこと。授業中の演習時間だけでは十分な時間が確保できないので、授業以外の時間において教科書・問題集などの多くの問題を解くよう努力すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校で履修した「関数とグラフ」について習熟していること。</p>	
<p>[レポート等] 長期休暇中の宿題の他、授業時にも適宜小テスト・レポートを課す。各定期試験の成績不振者には再試験を課す。</p>	
<p>教科書：高専の数学1（森北出版） 新編高専の数学1問題集（森北出版）、ドリルと演習シリーズ基礎数学（TAMSプロジェクト4編集）</p> <p>参考書：解法演習基礎数学（森北出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間、前期期末、後期中間、学年末試験における得点、小テストの得点、レポート課題の得点を平均し、100点満点で評価する。ただし、小テストと定期試験の得点が満点の60%に満たない場合は再試験を行い、合格基準を満たした場合はその試験の得点を満点の60%に修正する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>小テストとレポート課題がすべて合格（再試験による合格を含む）しており、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学Ⅲ	平成20年度	川本正治	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

工学を学ぶ上で基礎となる平面図形，三角関数について学ぶ．前半は平面図形のうち直線や円について，後半は三角関数について，定義，公式，計算法などを理解し，三角関数のグラフを描くこと，三角形の面積や形状を求めることができるようにする．

[授業の内容]

全ての内容は，学習・教育目標（B）〈基礎〉に対応する．

前期

第1週 授業の概要

数直線上の点の座標

第2週 座標平面上の2点を内分・外分する点の求め方

第3週 数直線・座標平面上の2点間の距離の求め方，中線定理

第4週 三角形の重心

第5週 座標平面内の直線の方程式

第6週 2つの直線が平行・垂直になるための条件

第7週 垂直二等分線，直線に関して対称な点

第8週 前期中間試験

第9週 円の方程式

第10週 円と直線が交わる条件，接する条件

第11週 アポロニウスの円

第12週 楕円の定義

第13週 楕円の標準形，焦点

第14週 鋭角の三角関数の定義

第15週 三角関数の基本的な公式

第16週 三角関数に慣れるための問題演習

後期

第1週 一般角と弧度法

第2週 三角関数の関係式

第3週 三角関数に関するいろいろな等式の証明

第4週 三角関数のグラフ（正弦・余弦）

第5週 三角関数のグラフ（正接）

第6週 三角関数のグラフ（周期，漸近線，伸縮，平行移動）

第7週 加法定理

第8週 後期中間試験

第9週 三角関数の合成

第10週 倍角の公式，半角の公式

第11週 積を和に直す公式，和・差を積に直す公式

第12週 三角関数の方程式

第13週 三角関数の不等式

第14週 三角形の面積，正弦定理

第15週 余弦定理，ヘロンの公式

第16週 双曲線

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
基礎数学Ⅲ（つづき）	平成20年度	川本正治	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 座標平面において、2点間の距離や内分点・外分点の座標、三角形の重心の位置を求めることができる。 条件から直線の傾きや方程式を求めることができる。 直線の方程式からグラフをかくことができる。 2直線が平行であるための条件、垂直であるための条件を理解し、それを利用することができる。 条件から円の方程式を求めることができる。 方程式から円の中心と半径を求めることができる。 円と直線が交わるための条件、接するための条件を理解し、それを利用することができる。 楕円の描き方と性質を理解し、方程式（標準形）、焦点の座標などを求めることができる。 鋭角の三角関数の定義を理解し、簡単な角度に対してその値を求めることができる。 1つの三角関数の値から、他の三角関数の値を求めることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 三角関数を使って、高さや距離、角度などを求めることができる。 弧度法と60分法の関係を理解し、扇形の弧長や面積を計算できる。 一般角での三角関数の定義を理解し、与えられた角度に対してその値を求めることができる。その逆もできる。 三角関数の関係式を理解し、利用することができる。 三角関数のグラフを描くことができる。 加法定理を理解し、それを利用することができる。 加法定理より他の公式を導くこと、利用することができる。 三角関数を合成すること、それを利用することができる。 三角関数の方程式・不等式を解くことができる。 三角関数を利用して、平面図形に関する問題を解決することができる。 正弦定理・余弦定理・ヘロンの公式を理解し、利用することができる。 双曲線の方程式、焦点、漸近線などを求めることができる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>平面図形と方程式の関係を理解し、長さや座標などを求めたり図で表したりでき、三角関数の定理や公式を理解し、計算することやグラフをかくことができ、様々な問題を解決することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～22の確認を小テスト、レポート課題、前期中間試験、前期期末試験、後期中間試験、学年末試験で行う。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。評価結果が百点法で60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>定期試験直前の学習のみでなく、平常時の予習・復習を大切にして下さい。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校で学習した、直線の方程式、三平方の定理、三角形の相似、円周角の定理など。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>夏期休業には課題を出します。授業内容の復習として、小テストを実施します。</p>	
<p>教科書：高専の数学1（森北出版）、新編高専の数学1問題集（森北出版）、 ドリルと演習シリーズ基礎数学（TAMSプロジェクト4編集）</p> <p>参考書：チャート式 数学Ⅰ+A、数学Ⅱ+B（数研出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間、前期期末、後期中間、学年末試験における得点、小テストの得点、レポート課題の得点を平均し、100点満点で評価する。ただし、小テストと定期試験の得点が満点の60%に満たない場合は再試験を行い、合格基準を満たした場合はその試験の得点を満点の60%に修正する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>小テストとレポート課題がすべて合格（再試験による合格を含む）しており、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
物理	平成20年度	大矢弘男	1	通年	履修単位2	必

[授業のねらい]

物理は、自然の仕組みを調べる学問の基礎として大切であるが、またその応用として専門技術の理解にも必要なものである。中学校の理科では、自然の仕組みを言葉の説明を通して理解してきた。この授業では、自然を理解するときに数式を使い計算を通して行うという物理学本来の方法を学ぶ。この方法は、専門科目の理解の方法とも一致するので早くなれて欲しい。

具体的には、物理学の中でも、基礎となる力学の「速度」、「加速度」からはじめ「運動の法則」、「運動量」、「力学的エネルギー」等を学ぶ。また、「熱エネルギー」についても学ぶ。1年生では、数学の進度の関係から運動は、一直線の運動のみを学ぶ。平面上の運動については、2年生になってから学ぶ。

[授業の内容]

前後期共に第1週～第16週までの内容はすべて、学習・教育目標(B)〈基礎〉に相当する。

前期

第2部 運動と力 第1章 物体の運動

第1週 有効数字の説明, 速度

第2週 速度

第3週 加速度

第4週 加速度

第5週 落体の運動

第6週 落体の運動

第7週 演習

第8週 前期中間試験

第2章 力と運動

第9週 力

第10週 力

第11週 運動の法則

第12週 運動の法則

第13週 運動方程式の応用

第14週 運動方程式の応用

第15週 運動方程式の応用

第16週 演習

後期

第1週 圧力と浮力

第2週 圧力と浮力

第3週 圧力と浮力

第4週 大きさのある物体にはたらく力

第5週 大きさのある物体にはたらく力

第6週 大きさのある物体にはたらく力

第7週 演習

第8週 後期中間試験

第3部 エネルギー 第1章 仕事とエネルギー

第9週 仕事

第10週 仕事

第11週 運動エネルギー

第12週 位置エネルギー

第13週 位置エネルギー

第14週 力学的エネルギー

第15週 力学的エネルギー

第16週 演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
物理（つづき）	平成20年度	大矢弘男	1	通年	履修単位2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 四則計算に関する有効数字の取り扱いができる。 2. 変位，速度，加速度の意味を理解し，それらを計算できる。 3. 落体の運動の式を使ってその運動の計算ができる。 4. 力を理解し，その計算ができる。 5. 運動方程式を理解し，計算ができる。 6. 運動方程式を応用し，色々な運動の計算ができる。 7. 摩擦を理解し，計算ができる。 8. 圧力と浮力を理解し，それらの計算ができる。 9. 力のモーメントを理解し，計算ができる。 10. 重心の計算ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 1. 仕事を理解し，計算ができる。 1 2. 運動エネルギーを理解し，計算ができる。 1 3. 位置エネルギーを理解し，計算ができる。 1 4. 力学的エネルギー保存の法則を理解し，その考え方を使った計算ができる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>力学に必要な物理量の考え方に関する用語を理解し，必要な計算ができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1から14にあげた事柄に関する問題を2回の中間試験，2回の定期試験で出題し，目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。ただし，基本概念及び基本法則に関する計算は繰り返し用いられるので，必然的にその重みは大きくなる。試験問題のレベルは高等学校程度である。評価結果が60点以上の場合に目標の達成とする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>“勉強の仕方”</p> <p>基本的に，教科書にしたがって授業は行われる。授業が終わったら，自宅で，教科書の内容を復習する。問題集の習った範囲の例題，問題等を解いて理解を確実にするとよい。余裕があったら，ステップ3の問題にも挑戦してみる。</p> <p>物理は，自分で考え理解することが大切である。すぐ答えを見ないで，自分の力で考え解いてみる力を養うように努力する。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>特に，なし。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>夏休みに宿題，レポートの提出を求めることもある。</p>	
<p>教科書：高等学校「物理1」改訂版 兵頭申一他編（啓林館）</p> <p>参考書：センサー2007「物理I+II」（新課程用）高校物理研究会，啓林館編集部編（啓林館）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期期末・後期中間・学年末の4回の試験またはそれに代わる再試験（上限60点，各試験につき1回限りで，学年末は行わない）の結果を合計して，それを4で割ったものを評価とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
化学	平成20年度	杉山 利章	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

本科目の学習を通し、化学に関する基本的な事項、及び物質の構成や性質、その理論的な扱いを理解し、化学的なものの見方や考え方を身に付ける。またこれらを身に付けることで、高学年における実践的技術者教育の基礎をつくる。

[授業の内容]

《前期》

【化学とその役割】

第1週 シラバスを用いた授業の概要と進め方の説明、化学とその役割
学習・教育目標(A)〈視野〉〈技術者倫理〉に相当する。

以下のすべての学習内容は、学習・教育目標(B)〈基礎〉に相当する。

【物質の構成】

- 第2週 混合物と純物質
- 第3週 単体・化合物・元素
- 第4週 原子の構造と電子配置
- 第5週 イオンの生成とイオンからなる物質
- 第6週 元素の周期表
- 第7週 粒子の結びつきと物質の性質
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 原子量、分子量、式量
- 第10週 物質量
- 第11週 溶液の濃度
- 第12週 化学反応式とイオン反応式
- 第13週 化学変化の量的関係

【物質の変化】

- 第14週 反応熱
 - 第15週 熱化学方程式
 - 第16週 ヘスの法則
- 《後期》
- 第1週 酸と塩基
 - 第2週 水の電離とpH
 - 第3週 酸・塩基の中和
 - 第4週 中和滴定
 - 第5週 酸化と還元、酸化数
 - 第6週 酸化剤と還元剤
 - 第7週 金属の酸化還元反応
 - 第8週 後期中間試験
 - 第9週 電池
 - 第10週 電気分解
- 【無機物質】
- 第11週 周期表と元素の性質、水素と希ガス
 - 第12週 ハロゲンとその化合物
 - 第13週 酸素・硫黄とその化合物
 - 第14週 窒素・リンとその化合物
 - 第15週 炭素・ケイ素とその化合物
 - 第16週 まとめ

[この授業で習得する「知識・能力」]

《前期》

【化学とその役割】

- 1. 化学とその役割に関する知識を持っている。[前期第1週]

【物質の構成】

- 2. 混合物と純物質に関する知識を持っている。[前期第2週]
- 3. 単体・化合物・元素に関する知識を持っている。
[前期第3週]
- 4. 原子の構造と電子配置に関する知識を持っている。
[前期第4週]
- 5. イオンの生成とイオンからなる物質に関する知識を持っている。
[前期第5週]
- 6. 元素の周期表に関する知識を持っている。[前期第6週]
- 7. 粒子の結びつきと物質の性質に関する知識を持っている。
[前期第7週]

- 8. 原子量、分子量、式量に関する知識を持っている。

[前期第9週]

- 9. 物質量に関する知識を持っている。[前期第10週]

- 10. 溶液の濃度に関する知識を持っている。[前期第11週]

- 11. 化学反応式とイオン反応式に関する知識を持っている。
[前期第12週]

- 12. 化学変化の量的関係に関する知識を持っている。
[前期第13週]

【物質の変化】

- 13. 反応熱に関する知識を持っている。[前期第14週]

- 14. 熱化学方程式に関する知識を持っている。[前期第15週]

- 15. ヘスの法則に関する知識を持っている。[前期第16週]

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
化学(つづき)	平成20年度	杉山 利章	1	通年	履修単位2	必

<p>《後期》</p> <p>16. 酸と塩基に関する知識を持っている。[後期第1週] 17. 水の電離とpHに関する知識を持っている。[後期第2週] 18. 酸・塩基の中和に関する知識を持っている。[後期第3週] 19. 中和滴定に関する知識を持っている。[後期第4週] 20. 酸化還元と酸化数に関する知識を持っている。[後期第5週] 21. 酸化剤と還元剤に関する知識を持っている。[後期第6週] 22. 金属の酸化還元反応に関する知識を持っている。 [後期第7週] 23. 電池に関する知識を持っている。[後期第9週] 24. 電気分解に関する知識を持っている。[後期第10週]</p>	<p>【無機物質】</p> <p>25. 周期表と元素の性質、水素と希ガスに関する知識を持っている。[後期第11週] 26. ハロゲンとその化合物に関する知識を持っている。 [後期第12週] 27. 酸素・硫黄とその化合物に関する知識を持っている。 [後期第13週] 28. 窒素・リンとその化合物に関する知識を持っている。 [後期第14週] 29. 炭素・ケイ素とその化合物に関する知識を持っている。 [後期第15週]</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>化学Iに関する基本的事項を理解し、化学の役割、物質の構成、物質の変化、無機物質に関する知識、原理や用語を理解し、関連する問題を解くことができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>[この授業で習得する「知識・能力」]において示されている『29』の学習項目について、それぞれの学習項目ごとに小テストを実施し、その理解の程度を確認する。定期試験(中間試験)では、小テストの結果から理解度が不十分であったと思われる学習項目について、その学習項目の理解の程度を改めて確認する。</p> <p>この授業で理解したと認められる「知識・能力」の学習項目数を『18』以上取得した場合に、[この授業の達成目標]を満たしたことが確認できるように、小テスト及び定期試験(中間試験)で、それぞれの学習項目の設問の難易度と理解度判定レベルを設定する。</p>
<p>[注意事項] 授業中に演習問題を解くので電卓は必要である。また試験時においても電卓の持ち込みは可である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校での数学、理科、及び本校における数学に関する基礎知識。</p>	
<p>[レポート等] 限られた授業時間の中で取り組む練習問題だけでは、その量は足りない。「トライアルノート化学I」に真剣に取り組み、その学習項目の理解の程度を学生自身が確認できる手段として、それを担当教員に提出することを薦める。</p>	
<p>教科書:「高等学校 化学I 改訂版」 齋藤烈・山本隆一編(新興出版社啓林館) 参考書:「トライアルノート化学I」 数研出版編集部編(数研出版) 「フォトサイエンス化学図録」 数研出版編(数研出版)</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>[この授業で習得する「知識・能力」]において示されている『29』の学習項目について、それぞれの学習項目ごとに、『授業中に実施する理解度確認用の小テスト(各学習項目10点満点)で得られた点数』と、『定期試験(中間試験)(各学習項目10点満点)で得られた点数』を比べて、より高い点数の方を、その学習項目の『得点』とする。</p> <p>定期試験(中間試験)の評価は、その試験の範囲で学習した学習項目の『得点』の平均を10倍に(100点満点に換算するために)したものとする。</p> <p>学業成績は、前期および後期の定期試験(中間試験)の評価を平均したものとする。ただし、全授業期間を通じて、小テストまたは定期試験(中間試験)で、合格と判定された「知識・能力」の学習項目数が、『18』以上の者については60点未満であっても60点を与え、そうでない者について60点以上が得られたとしてもその者には59点を与える。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 I A	平成 2 0 年度	齊藤 園子 Michael Lawson	1	通年	履修単位 4	必

[授業のねらい]

コミュニケーション活動を行う際、内容のある程度正確に伝えることができるコミュニケーションスキル（言語運用能力）と、意見や感情を積極的に伝えようとする態度、そして文化の違いを受け入れることができる柔軟な姿勢を身につけていることが重要である。この授業では、日本人教員を中心とした文法・語法面での体系的学習を通して、情報を正しく伝達する言語技術を身につけ、異言語話者間での思考・発想の違いを理解するとともに、外国人教員による授業においてコミュニケーション手段として英語を使用し、積極的にコミュニケーションを推進する態度を向上させることを目的とする。

[授業の内容]

下記授業内容はすべて学科・学習教育目標（A）および（C）の項目に相当する。

【前期】

- 第1週 授業の概要
授業への参加の仕方、効果的な学習の進め方など
- 第2週 英語の語順（1）
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第3週 英語の語順（2）（3）
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第4週 時制（1） 現在時制
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第5週 時制（2） 過去時制、未来表現
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第6週 完了形（1） 現在完了形
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第7週 完了形（2） 過去完了形
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第8週 前期中間試験
- 第9週 助動詞（1） can, may その他助動詞の用法
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第10週 助動詞（2） will, should その他の助動詞の用法
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第11週 助動詞（3） may, must その他助動詞の用法
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第12週 受け身の表現（1） 受動態の基本的用法
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第13週 受け身の表現（2） 受動態の発展的用法
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第14週 助動詞・態に関連する表現
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第15週 否定表現
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）
- 第16週 前置詞、代名詞
コミュニケーション演習（外国人教員）（別紙）

【後期】

- 第1週 不定詞（1） to 不定詞の基本的用法
不定詞（2） 不定詞の意味上の主語
- 第2週 不定詞（3） 不定詞のさまざまな形
不定詞（4） 不定詞に関連する表現
- 第3週 動名詞（1） 動名詞の基本的用法
動名詞（2） 動名詞に関連する表現
- 第4週 動名詞と不定詞
分詞（1） 形容詞の働きをする分詞
- 第5週 分詞（2） 目的語について述べる分詞
分詞（3） 分詞構文
- 第6週 分詞（4） 独立分詞構文
分詞（5） 分詞に関連する表現
- 第7週 不定詞・動名詞・分詞のまとめと演習
- 第8週 後期中間試験
- 第9週 関係詞（1） 関係代名詞
関係詞（2） 関係代名詞と前置詞
- 第10週 関係詞（3） 関係副詞
関係詞（4） 複合関係詞
- 第11週 比較（1） 原級、比較級を使う表現
比較（2） 最上級を使う表現
- 第12週 比較（3） 比較に関連する表現
仮定法（1） 仮定法過去
- 第13週 仮定法（2） 仮定法過去完了
仮定法（3） 仮定法に関連する表現
- 第14週 時制の一致と語法（1）
時制の一致と語法（2）
- 第15週 接続詞
疑問文・感嘆文
- 第16週 さまざまな表現
まとめと演習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 I A	平成 20 年度	齊藤 園子 Michael Lawson	1	通年	履修単位 4	必
<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p><英語運用能力></p> <p>1. 「授業内容」に示した教科書の英文の内容が理解できる。</p> <p>2. 英文の内容に関して簡単な質疑応答が英語でできる。</p> <p>3. 教科書の英文に使用されている英単語・熟語の意味を理解し、使用できる。</p> <p>4. 自分で書いた短い英作文を内容が伝わる程度に発表できる。</p> <p><文法に関する理解></p> <p>■ 前期第 2 週から第 7 週</p> <p>5. 基本となる英語の文型 (S-V / S-V-C / S-V-O / S-V-O-O / S-V-O-C) が理解できる</p> <p>6. 現在時制, 過去時制の用法を理解することができる</p> <p>7. 進行形の基本が理解できる</p> <p>8. 基本的な未来表現が理解できる</p> <p>9. 完了形の基本が理解できる</p> <p>■ 前期第 9 週から第 16 週</p> <p>10. 基本的な助動詞の用法が理解できる</p> <p>11. 英語の態 (能動態, 受動態) に関する事項を理解できる</p> <p>12. 基本的な前置詞の用法が理解できる</p> <p>13. 基本的な代名詞の用法が理解できる</p>		<p>■ 後期第 1 週から第 7 週</p> <p>14. 不定詞の基本的用法が理解できる</p> <p>15. 動名詞の基本的用法が理解できる</p> <p>16. 現在分詞, 過去分詞の用法が理解できる</p> <p>17. 基本的な分詞構文が理解できる</p> <p>18. 関係代名詞・関係副詞の限定用法が理解できる</p> <p>19. 関係代名詞・関係副詞の叙述用法が理解できる</p> <p>20. 複合関係詞の用法が理解できる</p> <p>■ 後期第 9 週から第 16 週</p> <p>21. 関係副詞の用法が理解できる</p> <p>22. 複合関係詞の用法が理解できる</p> <p>23. 原級, 比較級, 最上級を使った比較表現が理解できる</p> <p>24. 仮定法過去が理解できる</p> <p>25. 仮定法過去完了が理解できる</p> <p>26. 基本的な否定表現が理解できる</p> <p>27. 時制の一致に関して理解できる</p> <p>28. 語法に関して理解できる</p> <p>29. 基本的な接続詞の用法を理解できる</p> <p><語彙力></p> <p>30. 3000 語レベルの英語語彙の意味が理解できる</p>				
<p>[達成目標]</p> <p>積極的に英語を用いてコミュニケーションを行うなかで, 英語と英語的発想に対する関心と理解を深め, 意思を伝えるための英語運用技術 (文法・語法) を向上させる。</p>		<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～29 を網羅した問題を 2 回の中間試験, 2 回の定期試験で出題し, 目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とするが, 文型や時制に関する知識はほとんどの文に用いられるので, 必然的に重みが大きくなる。評価結果が百点法で 60 点以上の場合に目標の達成とする。「知識・能力」30 については, オンライン学習システムを利用した学習結果で評価する。</p>				
<p>[注意事項] 電子辞書を必ず授業に持参すること。予習復習を行い, 積極的に授業に参加すること。授業時に英単語テストを行う。</p>						
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学校で学習した英単語, 英文法の知識</p>						
<p>[レポート等] 進度に応じて適宜演習課題を与える。</p>						
<p>教科書: 高校総合英語 Harvest (桐原書店)</p> <p>Harvest English Grammar - Green Course - in 25 Lessons (桐原書店)</p> <p>理工系学生のための必修英単語 3300 (成美堂)</p>						
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>中間試験, 定期試験の結果を 5 割, 授業中に行う小テスト及び提出課題の結果を 4 割, オンライン学習システムを利用した語彙学習の結果を 1 割としてその合計で評価する。ただし, 前期については外国人教員の授業における成績 (別紙シラバス参照) を 50%, 日本人教員による授業の成績を 50% の割合で総合的に評価する。前期中間, 前期末, 後期中間のそれぞれの試験について 60 点に達していない者には再試験を課し, 再試験の成績が該当する試験の成績を上回った場合には, 60 点を上限としてそれぞれの試験の成績を再試験の成績で置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で 60 点以上を取得すること。</p>						

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 I B	平成20年度	出口芳孝	1	通年	履修単位 2	必

[授業のねらい]

中学校で学習した知識・技能をかつようして、幅広い話題について英語で読んだり、聞いたりする能力を養うとともに、異文化に対する理解を深め、コミュニケーションの手段として積極的に外国語を活用しようとする態度を育てる。

[授業の内容]

すべての週の内容は、学習・教育目標(A)＜視野＞および(C)＜英語＞に対応する。

【前期】

- 第1週 Lesson 1: Languages in the World (1)
- 第2週 Lesson 1: Languages in the World (2)
- 第3週 Lesson 1: Languages in the World (3)
- 第4週 Lesson 2: Life in Alaska (1)
- 第5週 Lesson 2: Life in Alaska (2)
- 第6週 Lesson 2: Life in Alaska (3)
- 第7週 まとめ
- 第8週 中間試験
- 第9週 小テスト
- 第10週 Lesson 3: Tsugaru-jamisen (1)
- 第11週 Lesson 3: Tsugaru-jamisen (2)
- 第12週 Lesson 3: Tsugaru-jamisen (3)
- 第13週 Lesson 4: What's in a Name? (1)
- 第14週 Lesson 4: What's in a Name? (2)
- 第15週 Lesson 4: What's in a Name? (3)
- 第16週 まとめ

【後期】

- 第1週 Lesson 5: A Runner against Landmines (1)
- 第2週 Lesson 5: A Runner against Landmines (2)
- 第3週 Lesson 5: A Runner against Landmines (3)
- 第4週 Lesson 6: The Wonders of Saturn's Rings (1)
- 第5週 Lesson 6: The Wonders of Saturn's Rings (2)
- 第6週 Lesson 6: The Wonders of Saturn's Rings (3)
- 第7週 まとめ
- 第8週 中間試験
- 第9週 小テスト
- 第10週 Lesson 7: A Bridge between Japan and Laos (1)
- 第11週 Lesson 7: A Bridge between Japan and Laos (2)
- 第12週 Lesson 7: A Bridge between Japan and Laos (3)
- 第13週 Lesson 8: A Message from Forty Years Ago (1)
- 第14週 Lesson 8: A Message from Forty Years Ago (2)
- 第15週 Lesson 8: A Message from Forty Years Ago (3)
- 第16週 まとめ

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
英語 I B (つづき)	平成 20 年度	出口芳孝	1	通年	履修単位 2	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 「授業内容」に示した教科書の英語が理解できる。</p> <p>2. 既習の英文の内容に関する英問に対して適切な表現で答えることができる。</p>	<p>3. 既習の英語表現を使用し、基本的な英文が作成できる。</p> <p>4. 既習の英文を内容が伝わる程度に音読できる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>社会、科学、文化などに関する英文の内容を理解する読解力・聴解力、内容に関する質問に答えたりできる日本語および英語でのコミュニケーション能力を身につけている。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>3 技能（読む・書く・聞く）に関する「知識・能力」1～3 の確認を課題、小テスト、および中間試験、期末試験で行う。話す技能（「知識・能力」4）に関しては授業時の音読テストによって評価する。1～3 に関する重みはそれぞれ 30%、4 に関する重みは 10%であり、合計点の 60%の得点で目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 教科書英文の音読を含めた予習をし、積極的に授業に参加すること。 授業には必ず学校指定の電子辞書を用意すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校 3 年間で学習した英単語、熟語、英文法の知識。</p>	
<p>[レポート等] 授業に関連した課題、レポートを課す。（A4 サイズのレポート用紙を用意すること。）</p>	
<p>教科書：EXCEED English Series I（予習サブノートを含む）三省堂 参考書：学校指定のもの</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を 70%、小テスト（音読テストを含む）や課題の結果を 20%として、それぞれの学期毎に評価し、これらの平均値を最終評価とする。但し、学年末試験を除く 3 回の試験成績について 60%に達していない学生については再試験を行うことがあるが、その際は 60 点を上限としてそれぞれの試験の成績に置き換えるものとする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で 60 点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（実技）	平成20年度	舩越 一彦	1	通年	履修単位4(1)	必

[授業のねらい]

「体育実技」では、成長期であるこの時期に運動を通して基礎体力を高め、心身の調和的発達を促すとともに、生涯を通じて運動を楽しむ、健康な生活を営む態度を育てる。

[授業の内容]

以下の内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 授業内容説明
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 スポーツテスト
- 第4週 スポーツテスト
- 第5週 バasketボール（基本）
- 第6週 バasketボール（シュート、パス）
- 第7週 バasketボール（攻守の動き）
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 バasketボール（試合）
- 第10週 バasketボール（試合）
- 第11週 バasketボール実技試験
- 第12週 水泳（基礎練習）
- 第13週 水泳（クロール）
- 第14週 水泳（平泳ぎ）
- 第15週 水泳 総合練習
- 第16週 水泳実技試験

後期

- 第1週 体育祭の種目練習
- 第2週 走高跳（跳躍練習）
- 第3週 走高跳（跳躍練習）
- 第4週 走高跳計測及びサッカー（試合）
- 第5週 走高跳計測及びサッカー（試合）
- 第6週 走高跳計測及びサッカー（試合）
- 第7週 100m走計測及びサッカー（試合）
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 卓球（基本）
- 第10週 長距離走及び卓球（リーグ戦）
- 第11週 長距離走及び卓球（リーグ戦）
- 第12週 長距離走及び卓球（リーグ戦）
- 第13週 1500m計測
- 第14週 各種球技
- 第15週 各種球技
- 第16週 各種球技

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（実技）（つづき）	平成20年度	舩越 一彦	1	通年	履修単位4(1)	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種目におけるルール・特性を理解し、積極的に授業に取り組むことができる。 2. 安全に留意し、マナーを重んじ礼儀正しい態度で練習やゲームに参加することができる。 3. スポーツテストにより自分の体力を把握し、運動能力の向上に努めることができる。 4. バasketボールにおいてディフェンス、オフェンスの基本的な動きができる。 5. バasketボールにおいてシュートの基本動作ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 水泳において基本的な泳力を身につけている。 7. 走高跳、100走により自分の能力を把握し、成長に伴う運動能力の向上に努めることができる。 8. サッカーにおいて自分たちで試合運営ができる。 9. 長距離走において必要な持久力を鍛え、完走できる。 10. 卓球において、ダブルスのルールを把握し、協力して試合ができる。 11. 体育祭や校内マラソン大会において日頃の努力を発揮し、結果を残すことができる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>バasketボール、サッカー、卓球のルールの理解が確実で、身につけた様々な技術を練習・試合の場で積極的に発揮してスポーツを楽しむことができ、また併せて水泳、高跳、100m走、長距離走により基礎体力を身につけている。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～11の確認を授業時間内及び、校内マラソン大会において行う。「知識・能力」の重みに関しては、授業機会の多い4. 5. 6. 7. 10を重視するが、他はおおむね均等とする。</p> <p>武道・保健と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したレベルとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実技の説明をよく聞き、また準備体操をしっかりと行うことにより、不注意による事故やけがを未然に防ぐようにする。 2. 授業種目に応じて学校指定の衣類（ジャージ、運動靴、体育館シューズ、水着など）を着用すること。 3. 授業終了後は速やかに更衣し、次の授業に遅れないようにすること。 4. けがや、体調不良によりやむなく見学する場合も自分が手伝えること（タイムの計測、準備、後かたづけ等）を見つけて積極的に授業に参加する。（原則として見学者も指定のジャージに着替える事が望ましい） 5. 天候によって内容と時間配分が変わります。（雨天時はバasketボールなど球技を行います） 6. 1コマの中で保健と実技を行うので、実技に費やす時間は1回あたり45分程度です。 但し、水泳等は保健なしで実技を行う場合があります。 	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>各スポーツの基本的なルールを覚えておくことが望ましい</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>骨折や入院等で長期間欠席や見学をした場合のみレポートを提出する。</p>	
<p>教科書：特になし</p> <p>参考書：SPORTS GUIDANCE（一橋出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>バasketボールはドリブルシュート、水泳・100m・走高跳・長距離走は記録、卓球はリーグ戦成績で評価するが、保健体育全体の評価としては、保健理論25%及び体育実技25%で全体の50%、武道50%を合わせて総合的に評価する。その中には平常の実技に取り組む姿勢・意欲等も含む。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記の評価方法により60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（武道・剣道）	平成20年度	細野 信幸	1	通年	履修単位4（2）	必

[授業のねらい]

「剣道」は古来より「礼に始まり、礼に終わる」と言われるように常に礼を尊び厳格な礼儀作法で行われてきたことから、現代、礼儀を重んじる態度を育成するのに特に効果的である。剣道を通じて武道の精神を理解し、楽しく取り組める剣道の指導に心がけたい。

[授業の内容]

初歩的段階における剣道の特性とそれに基づく練習法に関する知識については、次のような事項を取り扱って、剣道の技能を高めることに役立たせる。

以下の内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 剣道の意義と特性
- 第2週 授業（剣道）目標（ねらい）
- 第3週 授業内容と方法
- 第4週 授業内容と方法
- 第5週 剣道用具とその取り扱い方法及び作法
- 第6週 竹刀について
- 第7週 防具の着け方（垂・胴・面・小手）
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 礼の仕方（坐礼・立礼）
- 第10週 竹刀の下げ方と中段の構え方
- 第11週 修練及び試合における始めと終わりの作法
- 第12週 構えについて（姿勢・竹刀の保持）
- 第13週 構えの解説（五行の構えについて）
- 第14週 体さばきについて（身体移動）
- 第15週 体さばきの実際（足運びの練習）
- 第16週 打撃の基礎修練法（素振り）

後期

- 第1週 稽古方法とその心得（健康と安全）
- 第2週 基本打突の実際（基本打突について）
- 第3週 各部位の打突について（打ち方・受け方）
- 第4週 気・剣・体一致の打突について
- 第5週 有効打突を判断する要素
- 第6週 間合について（種類）
- 第7週 間の取り方
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 仕掛け技・応じ技・鏝迫り合い・体当たり
- 第10週 稽古の種類とねらい
- 第11週 稽古の心得
- 第12週 試合に臨む心得
- 第13週 試合規則の説明と実践
- 第14週 校内武道大会
- 第15週 試合規則並びに審判規則の理解
- 第16週 一年間の反省と今後の課題

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（剣道）（つづき）	平成20年度	細野 信幸	1	通年	履修単位4（2）	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 剣道の意義と特性を理解し、積極的に声を出し授業に取り込むことができる。 2. 授業の内容と方法を理解し、行動することができる。 3. 剣道用具（防具・竹刀・剣道着・袴）の着装に対する理解と、正しく取り扱うことができる。 4. 竹刀の名称の理解と、正しく組み立てることができる。 5. 礼に対する理解と、正しく行動ができる。 6. 構えに対する理解と、実際に正しく構えることができる。 7. 体さばきの理解と、正しく行動ができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 稽古方法に対する理解と行動ができる。 9. 基本的な打ち方（竹刀操作）の心得と説明ができる。 10. 気・剣・体一致の理解と打突ができる。 11. 間合いについての理解と行動ができる。 12. 技に対する実際と、内容を理解している。 13. 稽古に対する心構えと試合に対する心得を理解している。 14. 試合及び審判規則の理解ができる。 15. 校内武道大会で日頃修練した技を発揮し悔いのない試合ができる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>武道（剣道）の精神を理解し、礼儀作法を身に付け剣道用具を正しく取り扱うことができ、剣道のルール、体さばきや竹刀の振り方などの基本となる技術を習得している。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～15の確認を授業時間内に行う。また、授業において基本となる技術の習得を確認するための簡単な実技テストも行う。「知識・能力」の重みに関しては、武道の基本となる3.9.の項目を重視するが、他は概ね均等とする。体育実技・保健と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>「剣道」は竹刀を使用して打突し合う競技であるため力まかせな行為に陥りやすい。楽しく競技するためには相手の人格を尊重する態度が他のスポーツに比べ一層重要となる。竹刀で打突するため、注意していても軽い打撲はつきものであるが、竹刀の破損による事故は競技者にとって致命傷になりかねない。したがって、授業中何度も竹刀のチェックをし、安全管理に心がけるようにすること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>入学後ごく簡単な基礎的知識を習得する段階から入るので、頑張る気持ちさえあれば問題はない。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>改めてレポート等の提出を求めることはないが、初めて経験する授業と思われるので、できればその日に学んだことをノート等に記録しておくと思われ。</p>	
<p>教科書：</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>武道の成績は体育実技・保健と合わせ、この授業で習得する知識・能力の達成度をもとに学習への取り組み姿勢も考慮し総合的に評価して保健体育の成績とする。内訳は武道（剣道）5割、体育実技・保健5割を原則とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（武道・柔道）	平成20年度	前川 忠秀	1	通年	履修単位4（2）	必

[授業のねらい]

「柔道」の基本動作の反復練習により、自己の能力にあった得意技を体得させ、相手の動きや技に応じた攻防を工夫し、お互いに協力、教えあいなどにより自主的・意欲的に練習が出来るようにする。また、練習・試合を通じてお互いに相手を尊重し、礼儀正しい態度を養う。

[授業の内容]

技の理論や方法をよく理解させ、簡単な方法から高度な方法へと、合理的にくり返して練習し技を体得させる。

以下の内容はすべて、学習・教育目標(A)〈意欲〉に相当する。

前期

- 第1週 柔道の知識（歴史、意義と練習の目的、練習の目的、授業の内容）
- 第2週 柔道衣の取り扱い方（着方、たたみ方）礼法
- 第3週 後受身（単独、2人一組による）
- 第4週 横受身（単独、2人一組による）
- 第5週 前受身、前回り受身
- 第6週 姿勢（自然体、自護体）組み方、歩き方
- 第7週 崩し、力の用法、作りと掛け、体さばき
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 投げ技について（禁止事項、練習の仕方）
- 第10週 膝車（掛け、横受身、相対動作による受身と掛け）
- 第11週 大腰（掛け、横受身、相対動作による受身と掛け）
- 第12週 相対動作による受身、掛け（確認）
- 第13週 固め技の基本（特色、練習の仕方、禁止事項）
- 第14週 本袈裟固（基本と応じ方）
- 第15週 崩袈裟固（基本〈5種類〉と応じ方）
- 第16週 崩袈裟固（基本〈5種類〉と応じ方）

後期

- 第1週 横四方固（基本と応じ方）
- 第2週 崩上四方固（基本と応じ方）
- 第3週 抑え技の攻め方について（四つんばいの体勢→頭部から攻めて抑える。）
- 第4週 抑え技の攻め方について（横向きの体勢→体側、背面から攻めて抑える。）
- 第5週 上四方固（基本と応じ方）
- 第6週 肩固（基本と応じ方）
- 第7週 得意技の習得（反復打込、乱取）
- 第8週 武道大会に振り替え
- 第9週 得意技の連絡変化（得意技→他の技）「例：袈裟固め→横四方固め」
- 第10週 審判規程の説明、試合における礼法、試合練習
- 第11週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第12週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第13週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第14週 校内武道大会
- 第15週 得意技の打込、乱取、試合練習、研究
- 第16週 授業の総括

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（柔道）（つづき）	平成20年度	前川 忠秀	1	通年	履修単位4（2）	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道の知識を理解し、積極的に授業に取り込むことができる。 2. 授業の内容と方法を理解し、行動することができる。 3. 柔道衣の取り扱いの理解と、正しく着装ができる。 4. 受け身の名称の理解と大切さ、そして正しく行動ができる。 5. 基本的な姿勢（組み方、歩き方）に対する理解と行動ができる。 6. 投げ技に対する（禁止事項、練習の仕方）理解と、心構えができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 7. 練習方法に対する理解と行動ができる。 8. 基本的な抑え技の心得と説明ができる。 9. 抑え技の理解と合理的な行動ができる。 10. 抑え技の連絡と変化を理解することができる。 11. 練習に対する心構えと試合に対する心得が理解できる。 12. 試合に臨む心得・及び審判規則が理解できる。 13. 校内武道大会で日頃修練した技を發揮し悔いのない試合ができる。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>柔道の知識・規則を理解し、受身・投げ技・抑え技などの基本となる技術を正確に体得し、様々な技の特性を理解し自己の能力にあった得意技を反復練習により身に付け、練習・試合の中で実行することができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>「知識・能力」1～13の確認を授業時間内に行う。「知識・能力」の重みに関しては、安全な授業進行のため4. 6. 9. 10.の項目を重視するが、他は概ね均等とする。体育実技・保健と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>柔道衣の安全や清潔を確かめ、禁止技を用いないなど、健康や安全に配慮して練習を行うこと。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>柔道の基礎的知識から指導するので特に必要なし。</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>改めてレポート等の提出を求めることはないが、初めて経験する授業と思われるので、できればその日に学んだことをノート等に記録しておくと思われ。</p>	
<p>教科書：</p> <p>参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>武道の成績は体育実技・保健と合わせ、この授業で修得する「知識・能力」をもとに学習への取り組む姿勢も考慮し総合的に評価して保健体育の成績とする。内訳は武道（柔道）5割、体育実技・保健5割を原則とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>実技科目なので技術の修得が第一条件ですが、学習への取り組む姿勢も含め総合的に評価し、60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（保健）	平成20年度	舩越 一彦	1	通年	履修単位4(1)	必

[授業のねらい]

「保健」の授業では、現代社会の健康、生涯を通じる健康、集団の生活における健康についての理解を深め、健康の保持増進を図り、集団の健康を高めることに寄与する能力と態度を養う。

[授業の内容]

以下の内容はすべて、学習・教育目標(A)＜意欲＞に相当する。

前期

- 第1週 授業内容説明
- 第2週 スポーツテスト
- 第3週 スポーツテスト
- 第4週 食事と健康（糖質）
- 第5週 食事と健康（脂質）
- 第6週 食事と健康（蛋白質）
- 第7週 食事と健康（ビタミン・ミネラル）
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 喫煙と健康
- 第10週 飲酒と健康
- 第11週 薬物乱用
- 第12週 医薬品と健康
- 第13週 生涯を通じる健康と家庭生活
- 第14週 免疫機能の働き
- 第15週 100分水泳
- 第16週 100分水泳のテスト

後期

- 第1週 出産に関するビデオ鑑賞
- 第2週 思春期と性
- 第3週 性機能とその成熟
- 第4週 受精・妊娠
- 第5週 出産の生理
- 第6週 結婚と家族計画
- 第7週 性感染症（梅毒）
- 第8週 体育祭に振り替え
- 第9週 エイズ
- 第10週 救急法の基礎知識
- 第11週 気道の確保と人工呼吸
- 第12週 心肺蘇生法
- 第13週 出血の処置
- 第14週 急病人の応急手当
- 第15週 運動中に起こりやすいけがの処置
- 第16週 救急法のまとめ

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
保健体育（保健）（つづき）	平成20年度	舩越 一彦	1	通年	履修単位4(1)	必

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 食事ではどの様なものを食べるのかということと同様に、どのような食べ方をするのが健康につながるかを理解している。 2. 心身に悪影響を及ぼす喫煙、飲酒、薬物乱用に対し正しい知識を身につけている。 3. 思春期に強く現れる心のゆれや性意識、性的欲求による不安や変化は自立や自律へ向かう成長期であることを理解している。 4. 男性女性の性機能の仕組みと働きについて理解している。 5. 受精、妊娠、出産のメカニズムを理解し、相手の立場に立って性を考えることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 家族計画の意義、避妊法、人工妊娠中絶について正しい知識を身につけている。 7. 性感染症の予防対策を理解している。 8. 突然の事故や急な発病の際の適切な対応の意義と原則について理解している。 9. 心肺蘇生法の原理と方法について理解している。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>授業で学んだ基本的事項を理解し、自分の日常生活とを照らし合わせて考えることができる。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～9を網羅した問題を2回の定期試験で出題し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。武道、体育実技と併せた評価結果において60点以上の成績を取得したとき目標を達成したレベルとする。</p>
<p>[注意事項]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 100分の中で保健と実技を行うので、保健に費やす時間は1回あたり40分程度である。但し、ビデオ教材を使うときなどは、100分間保健を行う場合がある。 2. 実技の進行状態によって内容と時間配分が変わることがある。 	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>中学校で学んだ保健の内容及び一般常識</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>特になし</p>	
<p>教科書：「学生のための健康科学」</p> <p>参考書：「図説 新高等保健」</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>100分で保健と実技を行うため、保健の試験は全期末と学年末の2回のみ実施する。保健単独で試験を行うが、保健体育全般としての評価は、保健25%及び体育実技25%で全体の50%、武道50%を合わせて総合的に評価する。その中には平常の学習に取り組む姿勢・意欲等も評価の対象として含まれる。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>上記評価方法により60点以上取得すること</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
美術	平成20年度	浅井 清貴	1	通年	履修単位 2	選

[授業のねらい]

芸術とは、毎日の暮らしの中で運命に流されている自分を止め、自らに問いかけ、生まれ、老い、死んでいくかけがえのない人生を慈しみ、明日のエネルギーを汲み出し、自己を変革する行為である。美術はそのために必要な創造力と感性を養い、発想を豊かにし「美しく生きるとは何か」を考え形にする。又情操教育の一環として情緒を確立する。

[授業の内容] すべての内容は、学習・教育目標 (A) の〈視野〉に対応する。

前期	後期
1 美術史 (講義)	6 風景画 (制作)
第 1 週 芸術とは何か	第 1 週 自然に学ぶ(校内写生)
第 2 週 人類は何故描くのか	第 2 週 〃
第 3 週 画家の誕生と天才たちの饗宴	第 3 週 〃
第 4 週 モダンアートと印象派	7 コンテンポラリーアート
2 コラボレーションアート (講義)	第 4 週 現代美術(抽象画の制作)
第 5 週 今、なぜ芸術福祉か	第 5 週 〃
第 6 週 障害者のアート	8 環境芸術
3 静物画 (制作)	第 6 週 アルテポーベラ
第 7 週 不自由体験(利き腕以外での制作)	第 7 週 リサイクルアート
第 8 週 〃	第 8 週 〃
第 9 週 〃	9 仮面舞踏会
4 生活環境とデザイン	第 9 週 舞台美術(面を作り面で舞う)
第10週 人権ポスターの制作	第10週 〃
第11週 〃	第11週 〃
第12週 〃	10 メディアアート
第13週 〃	第12週 舞踏パフォーマンス
5 構想画 (制作)	第13週 〃
第14週 名画のイメージ変換	第14週 未来の夢デザイン
第15週 〃	第15週 〃
第16週 〃	第16週 〃

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
美術（つづき）	平成20年度	浅井 清貴	1	通年	履修単位 2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 美術史を理解している. 2. 障害者芸術の魅力を理解している. 3. 不自由な制作を体験している. 4. ビジュアルラングエッジを理解している. 5. 泰西名画に学ぶことができる. 	<ol style="list-style-type: none"> 6. 現代の美術を理解している. 7. 自然を見つめ自然に学ぶことができる. 8. 現代の美術を理解している. 9. 近未来のアートを表現することができる. 10. 未来への創造を制作することができる.
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>美術史を総合的に理解し、加えて現代社会を生きていく上での創造力をそなえ、未来の創造を考えることができる.</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～10を網羅した問題を2回の定期試験と8つの制作作品を課し、目標の達成度を評価する。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で、目標の達成を確認できるレベルの試験・制作を課す。</p>
<p>[注意事項] 芸術意味をよく理解し、各々の制作課題と真剣に取り組む態度が必要である。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 特になし。</p>	
<p>[レポート等] 長期休暇中の課題としてテーマを決めた絵画、ポスター等、制作途中作品の完成を課す場合がある。</p>	
<p>教科書： 「高校美術1」長井一正・他著（日文），「美術Ⅲ」野田弘志・他著（光村図書） 参考書： 「西洋美術史」高階秀爾著（美術出版社），「芸術と美学」R. シュタイナー著（平河出版社）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>期末の試験結果の平均値を20%，8点の制作課題（パフォーマンス含む）による採点を80%とする。再試験は行わない。 [単位修得要件] 与えられた制作課題を提出し、学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
音楽	平成20年度	阿部 浩子	1	通年	履修単位 2	選択

[授業のねらい]

歌唱指導により、より良い発声と、歌詞の内容をよく把握してより良い表現をできるようにし、バロックから近代の音楽の歴史と作曲家、作風を理解する。

[授業の内容]

前期

- 第 1 週 教科書の内容紹介, 1年間の授業の流れ
- 第 2 週 歌唱指導, 発声について, 正しい姿勢と腹式呼吸について, 西洋音楽史の流れについて
- 第 3 週 歌唱[おおシャンゼリゼ]バロック音楽について
- 第 4 週 歌唱[翼を下さい] ヘンデル「ハーブ協奏曲」作曲家, 作品を解説, CD鑑賞后感想文提出
- 第 5 週 「My Way」Bach[トッカーターとフーガ]
- 第 6 週 「Yesterday」古典派の音楽
- 第 7 週 [Sound of Music] モーツァルトについて
Sym. 40
- 第 8 週 「エーデルワイス」Beethoven Sym9
- 第 9 週 Musical について[Sound of Music]内容紹介,
Video 鑑賞
- 第10週 Video 鑑賞[Sound of Music]
- 第11週 Video 鑑賞[Sound of Music] 感想文提出
- 第12週 「野ばら」, ロマン派の音楽
- 第13週 「世界にひとつだけの花」Schubert「魔王, 野ばら,
ます他」
- 第14週 「未来へ」 ショパン作曲「子犬のワルツ, 革命,
英雄ポロネーズ」他
- 第15週 オペレッタの解説
J. シュトラウス I 世、II 世 鑑賞感想文
- 第16週 「カントリーロード」 「ホール・ニュー・ワールド」
組曲「スター・ウォーズ」鑑賞感想文

後期

- 第 1 週 歌唱「赤とんぼ」, 交響詩R. シュトラウス交響詩「ツァラツストラかく語りき」
- 第 2 週 「トゥナイト」, プッチーニ オペラ「蝶々夫人」の解説
- 第 3 週 Video 鑑賞 オペラ「蝶々夫人」
- 第 4 週 Video 鑑賞 オペラ「蝶々夫人」感想文
- 第 5 週 「星に願いを」, ラフマニノフ「ピアノ協奏曲2」
- 第 6 週 「時代」, 近代の音楽について
- 第 7 週 「White Christmas」, ドビッシュー「夢・月の光・沈める寺」
- 第 8 週 「メモリー」, ラヴェル「夜のガスパール」
- 第 9 週 「浜辺の歌」, ガーシュイン「ラプソディー イン ブルー」
- 第10週 「Love Love Love」, 西洋音楽史の流れについて「まとめ」
- 第11週 「美女と野獣」 ギター名曲集「アランフェス協奏曲」
- 第12週 「アニー・ローリー」, J. ウィリアムズ「スターウォーズ」組曲
- 第13週 1年間勉強した歌の総練習
- 第14週 歌唱テスト
- 第15週 Video 鑑賞
「マイ フェア レディー」
- 第16週 Video 鑑賞
「マイ フェア レディー」感想文

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
音楽（つづき）	平成20年度	阿部 浩子	1	通年	履修単位 2	選択

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発声についてよく理解し積極的に声を出せる。 2. リズミカルな曲の楽しさを表現して歌える。 3. 歌詞の内容をよく理解し表現豊かに歌える。 4. バロック、古典派、前期ロマン派の西洋音楽史の流れを把握し、理解している。 5. 各時代の時代背景、音楽的内容について理解している。 6. 各時代の作曲家について理解している。（Bach, Haendel, Mozart, Beethoven, Schubert, Chopin）他 7. 各時代の作品について理解している。 8. ミュージカルについて理解している。 	<ol style="list-style-type: none"> 9. 交響詩の形態について理解している。 10. オペラについて理解している。 11. 後期ロマン派、近代の音楽について流れを把握し理解している。 12. 時代背景、音楽的内容について理解している。 13. 作曲家について理解している。（R. ショトラウス、プッチーニ、ラフマニノフ、ドビュッシー、ラヴェル） 14. 作品について把握している。 15. 正しい発声に基づいて、リズム音程を把握した上で、歌詞の内容をよく理解し、表現豊かに歌える。
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>西洋音楽史のバロックから近代までの流れを把握し、作曲家とその作品を理解し、また歌の内容をよく考えそれを表現して歌える。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～15の確認を、2回の定期試験と歌の実技テスト、CDやビデオの鑑賞の感想文提出、ノート提出により行う。合計点の60%の得点で目標の達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項] 歌唱にあたっては、姿勢を正しくし横隔膜を下げ、お腹を膨らますようにして息を吸い込み、横隔膜や腹筋で支えて声を出す。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲] 中学修了程度</p>	
<p>[レポート等]</p> <p>感想文の提出を求める。</p>	
<p>教科書：高校生の音楽1，改訂新版 山本文茂ほか5名著 参考書：</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>2回の期末試験結果の平均値50%，実技テスト，鑑賞の感想，ノート50%で評価する。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>与えられた課題レポートを提出し，学業成績で60点以上を取得すること。</p>	

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
書道	平成20年度	山田順子	1	通年	履修単位2	選

[授業のねらい]

書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てると共に、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的能力を伸ばす。

[授業の内容]

すべての内容は、学習・教育目標（A）の<視野>に対応する。
前期後期を通じて、授業開始15分間ペン習字を取り入れる。

前期

- 第1週 ガイダンス 執筆法・用具と用材
- 第2週 書写から書道へ
- 第3週 楷書 九成宮醜泉銘
- 第4週 楷書 九成宮醜泉銘
- 第5週 楷書 孔子廟堂碑
- 第6週 楷書 孔子廟堂碑
- 第7週 楷書 雁塔聖教序
- 第8週 楷書 雁塔聖教序
- 第9週 楷書 顔氏家廟碑
- 第10週 楷書 顔氏家廟碑
- 第11週 楷書 魏霊蔵造像記
- 第12週 楷書 魏霊蔵造像記
- 第13週 楷書 鄭義下碑
- 第14週 楷書 鄭義下碑
- 第15週 楷書創作学習
- 第16週 楷書創作学習

後期

- 第1週 行書の学習 東晋の「蘭亭序」（王羲之）について
- 第2週 行書 蘭亭序
- 第3週 行書 蘭亭序
- 第4週 行書 蘭亭序 全臨
- 第5週 行書 蘭亭序 全臨
- 第6週 行書の学習 平安の「風信帖」（空海）について
- 第7週 行書 風信帖
- 第8週 行書 風信帖
- 第9週 行書 風信帖
- 第10週 行書の創作学習（カレンダー制作）
- 第11週 行書の創作学習（カレンダー制作）
- 第12週 行書の創作学習（カレンダー制作）
- 第13週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第14週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第15週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習
- 第16週 漢字仮名交じり書（調和体）の学習

授業科目名	開講年度	担当教員名	学年	開講期	単位数	必・選
書道（つづき）	平成20年度	山田順子	1	通年	履修単位2	選

<p>[この授業で習得する「知識・能力」]</p> <p>1. 楷書の学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 楷書の成立と基本用筆について理解している。 2 臨書を通し古典の特徴や書風を理解している。 3 創作により、古典の書風と自己の個性を調和させ表現できる。 <p>2. 行書の学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 行書の成立と基本用筆について理解し、楷書との違いを理解している。 2 蘭亭序の臨書を通じて、字体の持つ流動美を把握し、作者王羲之の感性に触れることができる。 3 風信帖の臨書を通じて、空海が中国から学んだ王羲之と顔真卿の行書が和風として確立した事を理解している。 	<p>2. 漢字仮名交じり書（調和体）の学習</p> <p>自分の好きな言葉を、漢字と仮名の調和を大切にしながら<私らしく>表現し、作品制作できる。</p> <p>4. ペン習字</p> <p>日々の実用書体として、基本点画をしっかり練習し、文字の筆順の原則、結構の原理に基づいて書くことができる。</p>
<p>[この授業の達成目標]</p> <p>楷書、行書、漢字仮名交じり（調和体）の書及び、ペン習字について、理論的実技的に特徴を理解し、習得している。</p>	<p>[達成目標の評価方法と基準]</p> <p>上記の「知識・能力」1～4の確認を、前期後期の2回の期末試験と授業中の実技試験で行う。達成度評価における各「知識・能力」の重みは概ね均等とする。合計点の60%の得点で目標達成を確認できるレベルの試験を課す。</p>
<p>[注意事項]</p> <p>古今の名跡に接し鑑賞することは“目習い”と言い、視覚的感受性によってその作品を深く味わうこと。</p> <p>臨書は古典に基づく基本的な点画や線質の表し方を観て真似て書くこと。創作はそこから感じる各々の個性を取り入れながら作品を作り出すこと。一件単純な作業の繰り返しだが、コツコツと学習し努力する姿勢を忘れず、授業に取り組んで欲しい。</p> <p>最初の授業に中学校まで使用していた書道用具を持参すること。</p>	
<p>[あらかじめ要求される基礎知識の範囲]</p> <p>小・中学校で培われてきた書写力</p>	
<p>[レポート等]</p>	
<p>教科書：「高校書道Ⅰ」（大阪書籍）</p> <p>参考書：「高校硬筆の練習」小竹光夫ほか2名著（教育出版）</p>	
<p>[学業成績の評価方法および評価基準]</p> <p>年2回の期末試験結果を30%、提出作品、学習への取り組み姿勢等を70%として、それぞれの期間毎総合的に評価し、これらの平均値を最終評価とする。</p> <p>[単位修得要件]</p> <p>学業成績で60点以上を修得すること。</p>	